令和２年８月20日

◆　たなばた後日譚　◆

　かつて私が顧問をしていた高校の吹奏楽部での思い出についての話題を載せたところ，思いがけずその曲を一緒に演奏してくれた（かつての）生徒さんから連絡をいただいた。いやはや，学校HPの力はすごいものだ。

　A君は，現在は中学校の先生とのこと。７月7日のメッセージで紹介した色紙に言葉を書いてくれた当人だ。

　H君からもメールをいただいた。彼は高校の先生。

「・・・毎年のようにあの定期演奏会のことを思い出してきました。おそらくあのステージに立ったみんなもそうだと思います。」

　とのうれしい言葉。

　今はこんな状況だけれど，またいつか皆さんであの頃のことを語りたいと思う（メッセージで触れたKさんやN君はどうしているだろう・・・）。

　そのようなことを考えながら過ごしていたある日のこと，音楽科の新任のS先生から，「吹奏楽部を見に来てもらえませんか？」とのリクエスト。

　どうしようかと悩んでいると，今度は部長のNさんと副部長のIさんが校長室にやってきた。すっかり外堀が埋められ段取りが整ってしまった。S先生はスコアも用意してくれた。これはまずい。きちんと予習しておかなくては・・・。

　曲は『序曲－りんごの谷』（Joseph Olivadoti）。

　譜面面（づら）は優しいが，ほとんど三和音でできている。これをきれいに響かせることは大変だ。いろいろな意味で勉強になるだろう。

　今年度の吹奏楽部は，COVID-19の影響で，春に予定していた定期演奏会が中止になったと聞いている。20名もいる３年生の演奏機会が奪われてしまった。他の高校でも同じような事例が多い。ここにも胸の痛い現実がある。

　そんなことも考えながら指揮台に上がった。まさか，また振ることになるなんて思ってもみなかったが，ここにもまた音楽を愛でる環境があった。とてもうれしかった。

　吹奏楽部の皆さん，S先生，今回はありがとう。これからも音楽を慈しんでいきましょう。今度また呼んでもらえないかな・・・

　と書いていると，今度は音楽室から『シンフォニア・ノビリッシマ』（Sinfonia Nobilissima）が・・・。　まいったなぁ，「続たなばた後日譚」が書けそうだ。